

福島第一原子力発電所 4号機新燃料取り出し後の作業手順レビューについて

< 参考資料 >
平成25年11月25日
東京電力株式会社

- ・4号機使用済燃料プールからの燃料取り出し作業では、使用済燃料の取り出しに先だって、新燃料22体の取り出しを行い、手順の確認を行った。
- ・その結果は以下のとおりであり、燃料取り出し作業にかかる各手順については特段問題なかったものの、作業を実施する上で、改善点が見いだされた。引き続き、安全を最優先に燃料取り出し作業を進めていく。

作業手順レビュー結果	対応事項
<p>< 作業手順 > 各手順は手順書に基づき実施された。燃料取出作業にあたって、各手順は特段問題なかったものの、作業環境の観点から以下の作業改善を実施することにした。</p>	-
<p>< 作業環境 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャスクピットでの燃料装填時に燃料内の砂塵が拡散し、作業を妨げるものではなかったものの、水中の視認性の低下が確認された。 ・キャスク蓋フランジ上にある砂塵を取り除くために、ホースからの流水による除去を行ったが、砂塵が舞うことで、蓋設置に時間を要した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設のポンプを用いて、キャスクピット内の水を吸引し、フィルタを通してプール内に戻すことにより、キャスクピット内の視認性に改善が見られた。今後も視認性が低下した場合には、同様の対応を行う。 ・フランジ上の砂塵をポンプによって吸引し、フィルタを通して、プール内に戻すこととし、砂塵が舞うことを防止する。
<p>< 放射線管理 > 燃料取り出し作業にかかる作業員の被ばく線量は、想定雰囲気線量(0.2mSv/h)に比較し、低く管理されていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> - FHM取り扱い時 : 最大0.25mSv(0.07mSv/h,作業時間4h) - キャスク取り扱い時: 最大0.30mSv(0.07mSv/h,作業時間4.5h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ALARA(As Low As Reasonably Achievable)の精神に則り、引き続き線量低減に努めていく。 <p style="text-align: right;">* ALARA: 合理的に実行可能な限り低く</p>

以上